



# モーツァルト室内管弦楽団 第128回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester / 128. Regulärkonzert

〈創立40周年記念シリーズ〉第2回  
〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第8回

## 2009年3月28日(土) 午後2時 ■ いずみホール

Sonnabend, 28. März, 2009, 14:00Uhr. *Izumi Hall*, Osaka

■主催：モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart>

■協賛：いずみホール〔財団法人 住友生命社会福祉事業団〕

■マネジメント：大阪アーティスト協会 E-mail: [artists@gol.com](mailto:artists@gol.com)

〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-25-909 Tel.06-6135-0503



モーツァルト室内管弦楽団 第128回定期演奏会

Mozart-Kammerorchester/128. Regulärkonzert

2009年3月28日(土) 2:00pm. ●いずみホール

Sonnabend, 28. März, 2009. 14:00Uhr. ● *Izumi Hall*, Osaka

〈創立40周年記念シリーズ〉第2回  
〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉第8回

ヨーゼフ・ハイドン (1732-1809)

Joseph Haydn (1732-1809)

交響曲 第92番 ト長調 Hob.I-92 《オックスフォード》

Sinfonie Nr.92 G-dur Hob.I-92 „Oxford-Sinfonie“

I. Adagio - Allegro spiritoso

II. Adagio

III. Menuetto : Allegretto

IV. Presto

チェロ協奏曲 第2番 ニ長調 Hob.VIIb-2

Concerto Nr.2 D-dur für Violoncello und Orchester Hob.VIIb-2

I. Allegro moderato

II. Adagio

III. Allegro

\* \* \*

交響曲 第94番 ト長調 Hob.I-94 《驚愕》

Sinfonie Nr.94 G-dur Hob.I-94 „Paukenschlag / Surprise“

I. Adagio - Vivace assai

II. Andante

III. Menuetto : Allegro molto

IV. Allegro di molto

チェロ：河野文昭 / Violoncello : Fumiaki Kohno

管弦楽：モーツァルト室内管弦楽団 / Orchester : Mozart-Kammerorchester

コンサートミストレス：林 泉 / Konzertmeisterin : Izumi Hayashi

指揮：門 良一 / Dirigent : Ryoichi Kado



門 良一 ● 指揮

Ryoichi Kado, Dirigent

1939年大阪生まれ。フルートを曾根亮一氏に、指揮法を青山政雄氏に師事。62年京都大学理学部卒業、67年同大学院修了。70年同志とともにモーツァルト室内管弦楽団を創立、常任指揮者となり現在に至る。87年、モーツァルトのピアノ協奏曲全27曲、交響曲全74曲の連続演奏完結に対し、モーツァルト室内管弦楽団とともに第5回藤堂音楽賞を受賞。

現在、NHK大阪文化センター、同神戸文化センター「モーツァルトを聴く」講師。京都産業大学教授。



河野文昭 ● チェロ

Fumiaki Kohno, Violoncello

兵庫県立神戸高校在学中にチェロを始める。京都市立芸術大学にて黒沼俊夫氏に師事。芸大卒業後、1982年に文化庁在外派遣研究員として渡米、ロスアンジェルスにてG.ライトー氏に師事。83年渡欧、ウィーン国立音楽学校にてA.ナヴァラ氏に師事。1984年11月、日本フィルハーモニー交響楽団定期演奏会にてフィンランドの現代作曲家コッコネンのチェロ協奏曲の日本初演（渡邊暁雄氏指揮）を行った他、大阪フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団等多くのオーケストラと共演する。81年、デビューリサイタルを大阪で開催。以降、東京、京都、福岡、広島、神戸、静岡等各地でソロリサイタルを行う。91年～95年の五年間には「河野文昭ワークショップ」と題し、毎年二晩ずつ異なったプログラムでの演奏会を京都で開催した。また、2004年5月には、ベリオの「セクエンツァXIV」（チェロソロ）を日本初演した。室内楽においては、バーヴェル・ギリロフ、マルタ・アルゲリッチ（Pf）、ローランド・グレイユ（Vn.）、ウルリッヒ・コッホ（Va.）、マリオ・ブルネロ（Vc.）、ゲーリー・カー（Cb.）、ヴォルフ

ガング・シュルツ（Fl.）、インゴ・ゴリツキ（Ob.）、コチアン弦楽四重奏団、パノハ弦楽四重奏団等、海外のアーティストと多数共演。また、アンサンブル of トウキョウ、紀尾井シンフォニエッタ東京のメンバーとしてニューヨーク・パッサ・モーツァルトフェスティバルの参加を始めとし、ドイツ、イタリア、フランス、オランダ、オーストリー等で公演。98年より静岡音楽館（AOI）のレジデントカルテットのメンバーとして、現代音楽も積極的に加えたプログラムでの活動も行っている。93年～2003年、大分県「ゆふいん音楽祭」音楽監督の他、各地の音楽祭、講習会に講師として参加。81年第50回日本音楽コンクールチェロ部門第一位。86年京都市芸術新人賞を始めとし、90年第5回京都音楽賞、92年大阪府文化祭賞、2004年京都府文化賞功労賞等、受賞多数。現在、東京藝術大学教授、中国天津音楽学院客員教授を務める。



モーツァルト室内管弦楽団 Mozart - Kammerorchester

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、38年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に

値する。'91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで90年からは大阪いづみホールを本拠として定期演奏会を、また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に16回を数えている。海外では'88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス（'85、'87年）、シプリアン・カヴァリス（'93、'94年）、ペーター・ダム（'83、'86、'88、'98、'00年）、ウィーンフィル木管アンサンブル（'86年）、ライナー・キューヒル（'90年）らとの名協演はいまも語り草となっている。'91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲などで活発に協演するほか、'93年には堺シテオペラとの協力による「モーツァルト・オペラシリーズ」を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。'06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。【素晴らしい成果】（毎日新聞）、【この楽団は注目】（朝日新聞）。

【楽団のホームページが出来ました】

演奏会予定や過去の演奏記録など徐々に充実させてまいります。アドレスは <http://www.hi-ho.ne.jp/mozart> です。

モーツァルト室内管弦楽団 / 出演メンバー

コンサートマスター ● 林 泉

第1ヴァイオリン	林 泉	第2ヴァイオリン	本多 智子	ヴァイオリン	灘 儀 育子	オーボエ	福田 淳
	稲庭 真理子		清水 めぐみ		西 嶋 恵子		安原 由香梨
	大西 秀朋		略 晴代	チェロ	日 野 俊介	ファゴット	佐 伯 利之
	菊池 優理		原田 潤一		岡 尾 有紀		田 中 良美
	森住 憲一		納庄 麻里子		柳 瀬 史佳	ホルン	木 山 明子
	北村 奈美		中塚 真紀	コントラバス	南 出 信一		西 内 幸
	青砥 華	ヴィオラ	道 幸 明美		中 村 公美	トランペット	大 西 宝
	中野 瑞己		森 永 愛子	フルート	大 江 浩志		稲 堀 愛子
						ティンパニ	泉 純太郎



## ハイドンのロンドン旅行

ハイドンはハンガリーの貴族、エステルハージ侯爵に30年間仕えた。侯爵の城はウィーンからも離れたハンガリーの田舎、アイゼンシュタットにあった。その地でハイドンは、ヨーロッパ中に広く知られるようになった多くの名曲を生み出したのである。ロンドンでは早くから彼の交響曲が人気を呼び、ある貴族は自分が組織したオーケストラの楽長にハイドンを呼ぼうとした。パリのオーケストラはハイドンに交響曲の作曲を依頼してきた。スペインにおいてもハイドンの名声は高く、スペイン宮廷に仕えた作曲家ボッケリーニは「ハイドンの妻」と呼ばれたが、彼はそれを誇りとした。また、ブライトコッフをはじめとするヨーロッパの名だたる出版社は競ってハイドンの作品を出版しようとした。1809年にナポレオンの軍隊がウィーンに攻め込んできた時、従軍していた音楽愛好家のフランス人将校がハイドンの家を表敬訪問した。これらの事実は当時のハイドンのものすごい人気を端的に物語るものである。とくに、幼い頃からヨーロッパ中を旅して名声をほしいままにしながら、晩年にいたるまで不毛の就職旅行を続けたモーツァルトと比較したとき、その対比は際立っている。

ボン生まれのヴァイオリニストで興行師のヨハン・ペーター・ザロモンは、ロンドンで成功していたが、以前からハイドンの交響曲の熱烈な讃美者であった。1790年、彼はイタリア旅行からの帰途、ハイドンの主君エステルハージ侯の死去を知り、すぐさまウィーンにハイドンのもとへ駆けつけたのであった。ザロモンはハイドンにロンドンへの演奏旅行を勧め、驚くほどの好条件を提示した。生涯にほとんど旅行経験のなかったハイドンは大いに心動かされ、かくして2回にわたるハイドンのロンドン旅行が実現したのである。第1回が1791～92年、第2回が1793～95年であった。それぞれ6曲ずつ、合計12曲の新しい交響曲（第93～104番）がそのために作曲され、《ロンドン交響曲》、あるいは招聘者の名をとって《ザロモン・セット》と呼ばれている。これらの交響曲はロンドンで爆発的な人気を博し、ハイドンを招いたザロモン・コンサートはかの地の一大社会現象となったのである。

### 交響曲 第92番 ト長調《オックスフォード》

第1回ロンドン旅行の際、ハイドンはオックスフォード大学へ招かれ、名誉音楽博士号を授与された。この交響曲は《ザロモン・セット》の直前に位置する作品であり、1789年ウィーンで作曲された旧作であるが、この折の記念演奏会で演奏されたのでこの名で呼ばれる。本来はパリの楽団、オーケストラ・ドゥ・ラ・ロージュ・オランピックの主宰者であったドーニ伯爵からの注文による3曲の交響曲（《ドーニ交響曲》、第90～92番）の最後のものである。ハイドン独特の端正な古典的風格に満ちた名曲であり、《ザロモン・セット》のスタイルがすでにこの曲で確立されていることがわかる。ハイドンにはこの曲をはじめ、本日のプログラムのもう1曲、第94番《驚愕》や、第88番、第100番《軍隊》など、ト長調の交響曲の名曲が多い。

### チェロ協奏曲 第2番 二長調

ハイドンの作品カタログには4、5曲のチェロ協奏曲が記載されているが、ハイドンの真作と認められていて楽譜が現存するのは第1番とこの第2番のみである。第1番は何と1961年に作曲当時の筆写譜が発見されてはじめて知られるようになった。第2番も一時自筆譜が行方不明になり、またその余りに高度の技巧を要する書法からハイドンの作ではなく、エステルハージ侯爵の楽団にいたチェリストのアントン・クラフトの作とする説が有力視されたことがあった。しかし1954年に自筆譜が再発見され、ハイドンの真作であることが証明された。古典派のチェロ協奏曲の最高峰であるだけでなく、シューマンやドヴォルザークのものとともに「3大チェロ協奏曲」とされるほどの名曲である。ハイドンのチェロに対する書法は18世紀のものとは思えないほど高度であり、室内楽や管弦楽作品においてもそれは顕著である。「チェロに弱い」モーツァルトとのこれまた対比がおもしろい。

### 交響曲 第94番 ト長調《驚愕》

第2楽章の開始早々、弱奏していたオーケストラが突然大きな音を出して聴き手を驚かす、ご存じ「びっくりシンフォニー」である。「演奏会でいねむりをする聴衆の目を覚まさせようとした」ハイドンのいたずら心による、という解説が通っているが、ある人が本人に直接聞いたところ、「そうではない」との返事であったという。ハイドンの真意は「新奇なサウンド」にあったようだ。この曲は第2楽章ばかりが有名になっているが、他の楽章も勝るとも劣らぬすばらしさである。第1楽章の躍動感、スケルツォに近い速いテンポのメヌエットの諧謔性、軽快なフィナーレの終わり近くハイドン独特の高揚感と、全曲がみごとなバランスを持った名曲である。こんな曲が今日めったに演奏されないなんておかしいではないか。

## 『ハイドンを忘れてもらっては困ります』

### 門 良一／モーツァルト室内管弦楽団による没後200年記念〈ハイドン・シリーズ〉 全10回・記録&予定

#### 第1回 2007年7月15日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第74回例会

ハイドン／交響曲 第6番 二長調 Hob. I-6 〈朝〉  
ハイドン／交響曲 第7番 八長調 Hob. I-7 〈昼〉  
ハイドン／ヴァイオリン協奏曲 第1番 八長調  
ハイドン／交響曲 第8番 十長調 Hob. I-8 〈晩〉  
ヴァイオリン：菊本 恭子

#### 第2回 2007年9月30日 いずみホール 第121回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その1

モーツァルト／交響曲 第39番 変ホ長調 K.543  
ハイドン／トランペット協奏曲 変ホ長調 Hob. VIIe-1  
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より  
コンスタンツェのアリア《私は恋をしていました》  
ロッシーニ／《セヴィリヤの理髪師》より  
ロジーナのアリア《今の歌声は》  
ハイドン／交響曲 第103番 変ホ長調 Hob. I-103  
《太鼓連打》  
トランペット：大西 由起、ソプラノ：成毛 未来

#### 第3回 2007年12月2日 いずみホール 第122回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob.XXI-3 (全曲)  
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子  
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗  
シモン(バス)：井原 秀人  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

#### 第4回 2008年3月2日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第75回例会 〈シュトルム・ウント・ドラック(疾風怒濤)時代〉

ハイドン／交響曲 第44番 ホ短調 Hob.I-44 〈哀悼〉  
ハイドン／チェロ協奏曲 第1番 八長調 Hob.VIIb-1  
ハイドン／交響曲 第45番 嬰へ短調 Hob.I-45 〈告別〉  
チェロ：山本 彩子

#### 第5回 2008年6月28日 ムラマツ・リサイタルホール 定期サロンコンサート〈クライネ・モーツァルト〉第76回例会 〈モーツァルトとハイドン〉その2(ハイドンとモーツァルトのホルン三昧)

ハイドン／交響曲 第31番 二長調 Hob.I-31 〈ホルン信号〉  
シュターミッツ／フルート協奏曲 十長調  
モーツァルト／ディヴェルティメント(フルート、オーボエ、  
ファゴット、4つのホルンと弦楽のための) 二長調 K.131  
フルート：大江 浩志  
ホルン：垣本 昌芳、垣本奈緒子、佐藤 明美、小椋 順二

#### 第6回 2008年9月27日 いずみホール 第125回定期演奏会〈モーツァルトとハイドン〉その3

モーツァルト／交響曲 第36番 八長調 K.425 〈リンツ〉  
ハイドン／ピアノ協奏曲 二長調 Hob.XVIII-11  
モーツァルト／コンサートアリア《私は行く、でもどこへ?》K.583  
モーツァルト／コンサートアリア《偉大な魂と高貴な心》K.578  
モーツァルト／《後宮よりの誘拐》K.384より コンスタンツェのアリア《あらゆる喜びが》  
ハイドン／交響曲 第96番 二長調 Hob.I-96 〈奇蹟〉  
ピアノ：小田切美穂  
ソプラノ：西田真由子

#### 第7回 2008年11月8日 いずみホール 第126回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《天地創造》Hob.XXI-2 (全曲)  
天使ガブリエル、イヴ(ソプラノ)：木村能里子  
天使ウリエル(テノール)：西垣 俊朗  
天使ラファエル、アダム(バス)：松下 雅人  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)

#### 第8回 2009年3月28日 いずみホール 第128回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第92番 十長調 Hob.I-92 〈オックスフォード〉  
ハイドン／チェロ協奏曲 第2番 二長調 Hob.VIIb-2  
ハイドン／交響曲 第94番 十長調 Hob.I-94 〈驚愕〉  
チェロ：河野 文昭

#### 第9回 2009年4月29日 いずみホール 第129回定期演奏会

ハイドン／交響曲 第100番 十長調 Hob.I-88 〈軍隊〉  
モーツァルト／ハ短調ミサ K.427より《主を讃えよ》  
モーツァルト／《ゴジ・ファン・トゥッテ》K.588より  
フィオルディリージのアリア《岩のように動かずに》  
ハイドン／協奏協奏曲 変ロ長調 Hob.I-105  
ハイドン／交響曲 第101番 二長調 Hob.I-101 〈時計〉  
ソプラノ：櫻井 孝子  
ヴァイオリン：釋 伸司  
チェロ：日野 俊介  
オーボエ：中江 暁子  
ファゴット：佐伯 利之

#### 第10回(アンコール公演) 2009年12月13日 いずみホール 第132回定期演奏会

ハイドン／オラトリオ《四季》Hob.XXI-3 (全曲)  
ハンネ(ソプラノ)：木村能里子  
ルーカス(テノール)：西垣 俊朗  
シモン(バス)：(未定)  
合唱：モーツァルト記念合唱団(合唱指揮：益子 務)



会 長 岡 本 道 雄 (京 都 大 学 名 譽 教 授)  
理 事 大 西 正 文 (大 阪 ガ ス 株 式 会 社 特 別 社 友) 谷 口 安 平 (京 都 大 学 名 譽 教 授)  
森 井 清 二 (関 西 電 力 株 式 会 社 顧 問) 吉 野 泰 生 (住 友 生 命 保 險 相 互 会 社 会 長)  
(50音順)  
顧 問 橋 下 徹 (大 阪 府 知 事 : 申 請 中) 平 松 邦 夫 (大 阪 市 長)  
伊 藤 郁 太 郎 (大 阪 市 立 東 洋 陶 磁 美 術 館 館 長) 梅 原 猛 (国 際 日 本 文 化 研 究 セ ン タ ー 顧 問)

法人会員 (50音順)

荒川化学工業	サントリー	大同ケミカルエンジニアリング	丸 紅
井上冷熱	住友金属工業	高松建設	丸山サービス
大阪ガス	住友精密工業	日本通運京都旅行支店	三井住友カード
関西電力	住友生命保険	濱田プレス工藝	ワコー
きん で ん	住友倉庫	林 六	*
阪野商店	ダイキン工業	福山製紙	日本セルフ

個人会員 (入会順、敬称略)

松井繁一	安藤邦洋	藤原啓助	内藤芳美	得田栄蔵	谷口勝昭
深田晴世	橋本太三雄	馬場明和	小西信一郎	菱谷勝次郎	完倉正信
河野幹雄	阿部由美子	阪野俊一	佐野廣子	足立宣治	野口祐三
河野奈津子	中川泰幸	森明子	神林恒道	東武次郎	野口外志子
福岡隆子	石上豊子	宮川泰濟	岡野昌樹	竹林大	森本武
梅原一哲	村本孝夫	和田暁夫	岡野恵津子	中谷庄八	小山浩
石本三千也	松本幸道	桑名孝子	杉浦和子	豊田紘生	野原清秀
田村真也	笹川忠士	石光正男	脇田修	奥野哲久	大西理都子
竹村治彦	緒林桂子	松枝正明	多屋貞男	平岡龍人	堀正二
岸田克己	確井昭彦	松枝多加子	野村透	平岡禮子	中野勇
梅村博也	確井みち子	光成博次	佐野雅祥	大西勇	松井基純
屋良 記 佐 治	長井重龜	植田史子	今井安男	飛田薫	松井香代子
國友正和	岸田多門	高杉方宏	玉手隆子	飯田祐子	山本春子
梅田文一	能田豊	川島弘章	野崎志朗	森野多聞	山本道子
稲垣千代子	森内達治	川島啓助	橋本靖昭	宮井芳子	和薬嘉夫
浮田俊太郎	宮井茂治	坂本綽子	冠大五	塩脇昭司	大磯隆一
荻野伊都子	祐野尚子	中井武司	有賀熙雄	塩脇祥子	中村多美子
桑山弘	金定秀光	中井佐和子	佐野哲郎	一木晃	細井提吉
三谷郁子	金定嘉也子	西森文彦	小柳陽一	岩崎弘一	大谷弘枝
田中喬	中條澄	岸田孝之助	服部盛隆	河瀬清子	満谷昭夫
天野康英	中嶋允子	豊田成子	田中四郎	佐竹時子	原喜代志
三浦信一郎	福岡昭吉	切畑敦詞	村西良彦	千宗守	大原清司
水鳥敬夫	山本次郎	中東富佐子	島村猛	荒木陽子	大原典子
渡辺優子	菅正徳	金盛琢志	河原恭子	宮崎悦朗	伊藤久栄
平川美津子	日高徳	三石武男	松井とも子	栗原順子	福谷巖

会 費・個人会員につきましては年会費1口2万円です。  
・法人会員につきましては年会費1口10万円です。  
会員の特典・年間6回の自主公演にご招待致します。(1口につき個人各1枚、法人各5枚)  
・ご同伴者は10%割引となります。  
・関連演奏会のご案内又はご優待を致します。  
・定期演奏会プログラムにご芳名を記載させていただきます。  
・会報「ディヴェルティメント」をお送り致します。

(有効期間は入会時より1年間です。)  
随時ご入会いただけます。